



荒川区西日暮里2-55-1  
国鉄労組東京地方本部  
発行責任者 鎌田博一  
編集責任者 常盤達雄

No.1747

2012年

6月5日

国労加入を  
大胆に訴えよう

連載企画  
分会紹介

32

常磐運輸連合

分会

本年三月のダイヤ改正により松戸車掌区と松戸運転区が綾瀬・我孫子運輸区に別れ、綾瀬運輸区は常磐緩行線(綾瀬・取手間)を担当し、我孫子運輸区は常磐快速(上野・取手間)と成田線(我孫子・成田間)を受け持つことになりました。松戸電車区(現在は松戸運輸連合分会)・上野電車区(連合分会と六〇年以上続いた歴史ある分会の再編成と上野支部初の運輸区設立とあつて前年夏より交流会やレク等顔合わせをし、分会結成に向けた打ち合わせを開催。その都度、職場集会など開きながら準備をしてきました。実際には分会の枠組み、職別・職場別の役員構成、新分会の財政立ち上げ、今までの旅行会、互助会など整理すべき点を克服し、五月七日分会結成大会を開催することができました。

加入歓迎会 相次ぎ開催

分会紹介にあるように、乗務員区再編にからんだ五月七日の常磐運輸連合分会発足の結成大会と同時に、四九歳の仲間が国労に加入。結成大会に続いて歓迎会もおこなわれ、盛り上がった大会となった。  
結成大会の中で上野支部森委員長からは「最近上野支部では、去年亀有駅斎藤さん、本年四月上野保技七四倉さんが加入。清掃のプロパーの方も加入があつて、組織拡大の流れが作られつつあると思います。今後の人生を国労と一緒にやっていくという勇気と決断に支部六〇〇名の組合員が勇気



位置というのをしっかり組合員の皆さんと考察しながら取り組んでいきたい。一人一人の思いが届くような機関運動を今後も進めていきたい」などのあいさつがされた。  
最後に東京地本鎌田委員長から国労バッジ、手帳、組合員証が手渡され、「このような歓迎会を開いていただき、ありがとうございます。手帳は明日から使いますのでよろしくお願いします」などの決意表明がされ、歓迎会は終了した。

鎌倉駅分会も開催

昨年まで八人の国労鎌倉駅分会では、元旦以降JR東労組から国労へ復帰加入が三人続き二人となった。世界の労働者が結びつく日の五月一日付けで佐藤さんが国労復帰加入を果たし、五月一七日に佐藤さんの復帰加入歓迎会を行った。

服部分会長のあいさつで始まり、来賓あいさつには大船支部富田副委員長、終了間際に東京地本宮崎組織部長が駆け付け、国労組合員証と国労バッジが本人に手渡された。主役の佐藤さんは「弁護士たちの国鉄闘争総括の本が新聞に掲載されたのを見てさっそく注文した。私の残り少ない鉄道人生を国労で頑張っていきたい」とあいさつした。  
歓迎会の盛り上がりど興奮は、その後本人も含めて誰に聞いても、みんなが何を語ったかなど定かな聞き取り調査が出来ないほど記憶を飛ばしてしまっていた。主役の佐藤さんは携帯電話を忘れたのも気付かないほどであった。

国労東京  
法律相談

6/13・7/11・9/12・10/10

14時~16時 (各30分)  
初回無料・要予約

国労東京  
野球大会

8/2 1・2回戦  
9/6 準1・決勝

大井スポーツセンター  
予備日 9月20日



佐藤さんは、二〇数年に及ぶ「分割・民営化」と言う風の中で、国労の情報や繋がりなども滞り不安だけが増す時期もあった。国労から離れるにいたったのはその時期であった。昔の仲間には「イヤミを言われた時期もあったが、その時期も何も言うことなく、今回「戻って来い」と温かく声を掛けてくれた先輩もいたと感謝の言葉が続いている。それだけに、今その体験を語り合える仲間が出来たことに喜びもひとしおだつたに違いない。余韻は日常会話にも顔をみせる。仲間が増えることの喜びを知っている分会らしくなった。呑み屋でも国労の血がこよう人には、もう一度国労に戻ってもらうなど話を弾ませる姿も出てきた。対岸を体験した仲間たちを含めて、二〇数年の俺たちの時代を語り合いたいものである。

# 東京平和運動センター 総会開催

東京平和運動センターの第二四回定期総会が、五月二三日に開催された。

総会議長に座光寺常幹(自治労)を選出し議事に入った。主催者挨拶で長谷川議長(東交)は大震災以降の多くの行動に感謝の意を表し、また、原発に触れ「国内全ての原発が停止しているが、事故が起こってはいけなものは造ってはいけない、核と人類は共存できない、また、沖繩の基地差別はまだまだ続いている、復帰四〇年経っても基地は減らず、米軍に関係する事件や事故はまだまだ続いている、さらに、危険なオスプレイの配備は絶対認められない」などと訴えた。

# メーデー 8000人結集

今年も日比谷野音において第八三回日比谷メーデーが開催され、多くの国労組合員をはじめ、八千人が参加した。

冒頭に三・一一大震災の犠牲者に黙とうを行った。実行委員長に就任している国労



議事は来賓挨拶を受け、事務局長からの経過と決算報告を拍手で承認し、その後今年度活動方針案が提案された。今年度は沖繩の基地問題を始め、歴史を歪曲する教科書の採択拡大や原発問題など多くの課題がある。討論では、東京教組、I女性会議、解放同盟、新運の発言を受けた。

その後方針と予算を満場一致で承認し、長谷川議長(東交)本橋事務局長(自治労東京)をはじめ、地本鎌田委員長を含む常任幹事、会計監査を選出し定期総会を終了した。



東京の鎌田委員長は、生活第一を掲げながら非正規労働と低賃金労働者の増大を進める野田政権を批判。来賓の福島瑞穂氏(社民党委員長)は自民党の憲法改正案や大阪維新の会の動きは、基本的人権を奪い、九条を捨て軍拡に進む危険な兆候と発言。その後郵政労働者ユニオン、福島平和フォーラム、JAL原告団などから決意表明を受けた。



# 営業協議会が ホームドア検証

四月二五日に、東京地本営業協議会は、実際に乗務で使用している大崎運輸区分会・池袋運輸区分会にも参加してもらい、今後導入が進むと予想されるホームドア問題交換会を開催した。

一〇時半に二班に分かれ、既にホームドアが導入されている恵比寿駅と目黒駅に集合した。目黒駅では、目黒駅長の案内を受け、ホームや駅事務室を移動しながらホームドアの構造や管理する端末、エラーが起きた場合の対処などをレクチャーしていただいた。

その後渋谷駅へ移動し、新橋支部の会議室で意見交換を行った。佐藤議長のあいさつのもと、新橋支部石井書記長からは「二駅への導入時には、駅だけの交渉で終わってしまった。運車を入れての交渉ができなかった。問題点を抽出してもらって、今後の導入へ検証してほしい」とのあいさつがあった。

各分会からの報告では「イタズラやビニール袋、空き缶などが支障したこともある。すぐに取り除けばいいが、時間がかかる」とタイムアウト(センサーが作動して係員が操作しないと運転再開できないシステム)になり苦勞する「駅としては、ホームドアは乗務員の対応としている。応援要



最後に佐藤議長から「駅長が説明にきてくれた。安全対策に労使の区別はない。責任の所在が曖昧。故障時に乗務員が行って、駅員が行かないのは何故かと思う。今後導入駅が増えると、混雑駅は大変だと思ふ。故障はレアケースと言うのが大事だと思ふ。対応できる人がいづもいるという態勢を作っていかなければ」などのまとめがあり交流会を終了した。



## 「がん」の保障 《生きるためのがん保険Days(デイズ)》

スタンダードプラン		入院給付金日額 10,000円の場合	保険期間: 終身 (抗がん剤治療特約は10年更新) 契約年齢: 0歳~80歳
初めて診断確定されたとき	診断給付金	がんの場合 一時金として 100万円 上皮内新生物の場合 一時金として 10万円	
入院したとき	入院給付金	1日につき 10,000円	
通院したとき	通院給付金	1日につき 10,000円	
手術したとき	手術治療給付金	1回につき 20万円	
放射線治療を受けたとき	放射線治療給付金	1回につき 20万円	
抗がん剤治療を受けたとき (上皮内新生物は対象外)	抗がん剤治療給付金	抗がん剤治療を受けた月ごとに 1ヵ月 10万円 乳がん・前立腺がんのホルモン療法の場合 (すべての保険期間を通し通算600万円まで) 1ヵ月 5万円	
プレミアムサポート	訪問面談サービスと専門医紹介 (このサービスは、株式会社法研が提供するサービスです)		

【引受保険会社】 アフラック東京第三法人営業部  
〒163-0456 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル  
当社保険に関するお問い合わせ・各種お手続き  
コールセンター 0120-5555-95

【募集代理店】 アベニール株式会社  
〒105-0004 東京都港区新橋5-15-5 交通ビル3F  
電話 03-3437-6810 ファックス 03-3437-6822

## 「生きる」を創る。Aflac

◆月払保険料 (団体取扱) (2011年4月1日現在)  
生きるためのがん保険 DAYS(デイズ) スタンダードプラン  
入院給付金日額 10,000円 定額タイプ  
保険料払込期間: 終身 (抗がん剤治療特約は10年更新)

	35歳	45歳	55歳	65歳
男性	3,656円	5,608円	9,360円	15,190円
女性	3,734円	5,274円	6,864円	9,048円

〈抗がん剤治療特約〉の更新後の保険料は更新時の年齢・保険料率によって決まります。

【取りまとめ先】 アベニール株式会社 東京営業所  
〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-55-1 国労東京地方本部内  
JR電話 054-2548 ファックス 03-3806-9275  
電話 03-3806-9264